平成29年度病害虫発生予察予報第2号（5月）

平成29年5月9日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生面積（地域名）
水稲	イネミズゾウムシ	平年並（県下全域）
かんきつ類	黒点病 カメムシ類	平年並（県下全域） 少（県下全域）
抑制、促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(中西)</u> 、平年並(西)、少(中央) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、平年並(西) <u>やや多(中央、西)</u> 、やや少(中西) <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>やや多(西)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ	<u>多(中央、西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> <u>多(中央、西)</u> 、平年並(東) 平年並(中央、西)、やや少(東) 平年並(東、西)、少(中央) 少(県下全域)
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(中西)、やや少(東) 平年並(県下全域) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(東、中央) 少(県下全域) 平年並(中央、中西)、少(東)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 平年並(中央) <u>多(中央)</u> 少(中央) 平年並(中央)

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 5月4日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞5月6日から6月5日

天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率60%です。

週別の気温は1～2週目は高い確率50%です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	10	30	60
		降水量	30	40	30
		日照時間	30	40	30

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	30	50
2週目		20	30	50
3～4週目		20	40	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：5月6日（土）～6月5日（月）

1週目：5月6日（土）～5月12日（金）

2週目：5月13日（土）～5月19日（金）

3～4週目：5月20日（土）～6月2日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻の病虫害

1) イネミズゾウムシ

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1)防除適期決定圃における調査では、4月中の発生は見られていないが、5月の気温は高めと予想されているため、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1)箱処理剤による防除を行う。

2 かんきつ類の病虫害

1) 黒点病

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1)前作の巡回調査では、ほぼ全てのほ場で発生が見られていた。

(2)5月の降水量は平年並と予想されている。

対 策

(1)感染は、枯れ枝上に形成された胞子が降雨により分散することにより起こるので、

落弁期以降、200～250mmの降水量を目処に薬剤防除を行う。

2) カメムシ類

発生量：少（県下全域）

根拠

- (1) 県下4カ所（安芸市、香美市、須崎市、四万十市）で実施しているフェロモントラップによる調査では、ほとんど誘殺が見られていない。
- (2) 昨年の発生量は、県下全域で平年より少なかった。

対策

- (1) 幼果を加害されると落果するため、ほ場内での発生に注意し、飛来を確認したら薬剤防除を行う。

3 抑制、促成キュウリの病害虫

1) ベと病

発生量：やや多（中西部）、平年並（西部）、少（中央部）

根拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部でやや多めであったが、中央部、西部は平年以下であった。発生程度は中西部、西部が高めであったが中央部はやや低めであった。
- (2) 本病は20℃前後、多湿条件で多発する。5月の気温は高めと予想されているため、発生面積の拡大、病勢の進展も少ないと考えられる。

対策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、平年並（西部）

根拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部でやや多めであったが、中央部、西部は平年以下であった。発生程度は中西部、西部が高めであったが、中央部は平年並であった。
- (2) 5月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。また、パルミノはカブリダニ類に対する影響が強いので注意する。

3) 黄化えそ病

発生量：やや多（中央部、西部）、やや少（中西部）

根拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年以下であったが、発生程度は中央部、西部が高く、中西部は低かった。

(2)本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになっているため、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

(1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行うとともに、作の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、蒸し込み等による防除を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

発生量：多（中央部、中西部）、やや多（西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部、中西部が多かったが、西部では平年並であった。発生程度は中西部、西部が高かったが、中央部は平年並であった。

(2)気温の高い時期を迎え、既発ほ場を中心に密度が急激に上昇すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。天敵導入ほ場のうち、スワルスキーカブリダニのみを導入しているほ場では、ミナミキイロアザミウマを防除することは困難なので、薬剤防除を併用する（ベネビアODであればスワルスキーカブリダニ、タバコカスミカメへの影響はほとんどない）。

4 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

発生量：多（中央部、西部）、やや多（東部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部、西部が多かったが、東部では平年並であった。発生程度は中央部が高めであったが、東部、西部は平年並であった。

(2)5月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

発生量：多（中央部、西部）、平年並（東部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部、西部が多かったが、東部は平年並であった。発生程度はいずれの地域も高めであった。

(2)5月の気温は高め、降水量は平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1)高温、多湿条件下で多発する。発生が蔓延すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) すすかび病

発生量： 平年並（中央部、西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年以下であった。発生程度は西部でやや高めであったが、東部、中央部は平年以下であった。
- (2) 5月の気温は高め、降水量は平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量： 平年並（東部、西部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積、発生程度とも平年以下であった。
- (2) 発生程度の高い地域は見られていないため、現在と同じ状況が続くと考えられるが、天敵の密度が低いほ場では、本虫の密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量： 少（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は少なく、発生程度も低かった。
- (2) 発生程度の高い地域は見られていないため、現在と同じ状況が続くと考えられるが、天敵の密度が低いほ場では、本虫の密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

発生量： 多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部でやや多めであったが、東部、中央部は平年以下であった。発生程度は中央部でやや高めであったが、東部、中西部は低かった。

(2) 5月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

発生量：やや多（中央部）、平年並（中西部）、やや少（東部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部はやや多めであったが、東部、中西部は平年以下であった。発生程度は中央部が高かったが、東部、中西部は平年以下であった。

(2) 5月の気温は高め、降水量は平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域も発生面積は平年並であったが、発生程度は高かった。

(2) 5月の気温は高め、降水量は平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量：やや多（中西部）、平年並（東部、中央部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部でやや多めであったが、東部、中央部は平年並であった。発生程度は中西部が高かったが、東部、中央部は平年並であった。

(2) 天敵による防除が普及しているため、現在と同じ状況が続くと考えられるが、天敵の密度が低いほ場では、本虫の密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は、上位葉を中心に防除を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は少なく、発生程度も低かった。
- (2) 発生程度の高い地域は見られていないため、現在と同じ状況が続くと考えられるが、天敵の密度が低いほ場では、本虫の密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) ヒラズハナアザミウマ

発生量：平年並（中央部、中西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年以下であった。発生程度は中西部でやや高めであったが、東部、中央部は低かった。
- (2) 天敵による防除が普及しているため、現在と同じ状況が続くと考えられるが、天敵の密度が低いほ場では、本虫の密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ発生面積は多く発病程度も高かったが、下葉中心の発生であり実害は見られなかった。
- (2) 5月の降水量は平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

発生量：平年並（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では発生面積は平年並、発生程度は低かった。
- (2) 5月の降水量は平年並と予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

発生量：多（中央部）

根 抛

- (1) 巡回調査では平年に比べ発生面積は多めであったが、発生程度は平年並であった。
- (2) 5月の気温は高めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) トマトに発生するうどんこ病は内部寄生性のもの（葉裏に発生する）と外部寄生性のもの（葉表に発生する）2種類がある。外部寄生性のものは病勢の進展も早く、被害も激しいので早期防除を徹底する。

4) 黄化葉巻病

発生量：少（中央部）

根 抛

- (1) 巡回調査では一部のほ場でのみの発生であった。
- (2) 5月の気温は高めと予想されている。本病の媒介虫であるタバココナジラミの発生が見られるほ場では、害虫密度の増加に併せ、罹病株も増加すると考えられるので注意する。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

発生量：平年並（中央部）

根 抛

- (1) 巡回調査では一部のほ場でのみの発生であった。
- (2) 気温の上昇に伴い、既発ほ場では密度が急激に増加すると考えられるので注意する。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ① 病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ② 病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③ 病虫害発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病虫害 etc.